

森田代表ご夫妻(前後列の右端)と
オシドリグループの皆さん

「オシドリグループ」は1994年に発足したボランティア団体で、これまで27年間にわたってオシドリ愛護活動を継続してこられました。グループが運営してこられた観察小屋は「オシドリを間近で見ることができる」と好評で、今では年間約1万人の方が県内外から訪れるほどになりました。

観察小屋建設当初、飛来するオシドリは30羽程度だったそうですが、地道な保護活動により、現在では多い日には1千羽が飛来します。ここで一度、野生のオシドリを間近で見た方は、翌シーズン以降も何度も日野町を訪れるとか。

オシドリが飛来する11月から3月までの期間中、グループの皆さんが毎日、来訪者の案内役を務めてこられました。森田代表ご夫妻も1日も欠かさず観察小屋に通われ、案内役や施設の環境整備をしながら、来訪者へ手書きのお礼状を送るなどの交流も続けられました。

こうして多くの方に親しまれてきた観察小屋ですが、老朽化などにより3月末に閉鎖され、近隣地に移転新築の後、11月1日に町営として再オープンする予定です。オシドリグループは施設の運営から離れることとなりますが、当面は案内役のノウハウ伝授などの活動を通じて協力していかれます。



岩田町長(左)と森田代表

施設の再建に向けて3月29日に行われた記念セレモニーでは、これまでの活動に対し、町からグループの一人一人に感謝状が贈られました。森田代表は「新しい観察小屋が愛されるよう変わらず協力したい。」と熱意を語られました。

森田代表はじめオシドリグループの皆さん、これまで本当にありがとうございました。

観察小屋で来訪者を迎えてきた
事務局の森田さん

☎日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

新型コロナウイルス 感染症

暑い夏がやってきます。感染症の対策をしながら、熱中症にも備えが必要です。教えてくださるのは

鳥取大学医学部副学部長 ウィルス学分野 景山誠二教授 です。



① 新型コロナウイルスの特徴を踏まえて、必ずマスクを付けるべき場面はどんなときですか。また、マスクが必要でない場所などがありますか。

② 誰かと会話するときは必ずマスクを着用してください。一人のときや屋外で人との距離が十分あるときは、マスクを外して構いません。

新型コロナウイルスは飛沫によって感染しやすいので、会話するときや屋内で人と一緒にいるとき、屋外でも人との距離が近いときは、必ずマスクを着用してください。田畑での作業、庭仕事、散歩など屋外で人との距離が2メートル以上とれるときは、マスクを外して構いません。マスクを持っておき、誰かに出会ったときは着用するとよいでしょう。

③ 熱中症にならないために注意することを教えてください。

④ のどが渇きを感じる前に、こまめな水分補給を心がけましょう。

マスクを着用した場合、呼吸数や体感温度が上昇するなど、体への負担がかかります。のどが渇きを感じる前に、こまめな水分補給を心がけましょう。1日に食事以外で、コップ6杯(1.2リットル)以上の水分補給が必要です。1時間に1杯などの目安を決めて飲まれるのもよいでしょう。

熱中症は重くなると命に関わるたいへん危険な病気です。体調がすぐれないと感じる前に、早めに休憩し、水分を取りましょう。

⑤ 新型コロナウイルスワクチンを3回接種しましたが、4回目の接種が必要でしょうか。

⑥ 条件の合う方は、主治医などと相談し、積極的な接種をご検討ください。

海外の研究でも、ワクチン接種による重症化予防効果が認められています。

新型コロナウイルス感染症では、高齢者や基礎疾患のある方などは特に重症化しやすいことから、国はそうした方に対象を絞って4回目接種を行うことを決定しました。条件(※)に該当する方は、主治医などと相談して、積極的な接種をご検討ください。

(※)60歳以上の方、18歳以上で基礎疾患のある方等で、いずれも3回目接種から5か月経過した方



☎日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072



表紙写真

タイトル: 収穫の喜び

撮影者: 日野町 松本 利秋

撮影者コメント: 農業を夢見て滋賀県から移住した小谷芽衣さん(一財)日南町産業振興センター研修生。トマトを栽培する(株)エイトでの研修も二年目に入り、手慣れたもので、収穫の喜びもひとしおのようです。日南トマトは高原で栽培され、甘みと酸味のバランスがよくジューシーと評判も上々である。と(株)エイトの岩田正社長は語ります。トマトは赤色を想像されますが、この時期は店頭に並んだ時点で真っ赤になるよう、収穫は薄く色づき始めた頃、7月から10月まで続きます。